



千葉労働者

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(22)7207番
96.7.4 No. 4425

7・14国鉄労働者集会へ! -JR総連・革マルとの闘いの重要性- (その3)

七月一四日に、自分たち動労千葉が呼びかけ、九・一八集会実行委員会主催による「正念場迎えた国鉄闘争の勝利めざす七・一四労働者集会」が開催されますが、それに向けて日刊で、「なぜ国鉄闘争が正念場なのか」「その(1)として、「二八兆円の累積債務問題」、その(2)として、「労務政策の破綻」をみてきました。今号は、「国鉄決戦勝利の道、JR総連・革マルとの闘い」です。

資本の意志・攻撃を先取り

分割・民営化が強行されてから一〇年、「国鉄改革」は、一〇年間のうちに土地・株式を全て売却し、清算事業団は債務の整理を完了して解散、JR七社は完全民営化を果たすという計画でした。しかし、累積債務は、二八兆円に膨れ上がり、「民営化」された七社のうち四社が赤字に転落—あの「大儀名分」は何だったのか。

結局のところ八七年の分割・民営化の時と同じように、JR総連・革マルを先兵とし、解決不能な分割・民営化政策の破綻というものを、労働者に対する今まで以上の合理化・効率化攻撃と、国労・動労千葉解体というところへ一切を絞って、襲いかかって来ているのが今の情勢です。

たしかにこの一〇年間、こうした攻撃は一貫して続けられていますが、昨年の勝浦運転区廃止攻撃など、今までと違う質をもつてきています。ここで大切なことは、JR総連・革マルは従来の単なる労資協調型の御用組合ではないということです。

「ワークシェアリング」「軍需生産推進」「ナチス経済の必要性」を公言(松崎講演)するなど、資本主義の危機、戦争と大失業の時代のなかで、分割・民営化の時がそうであったように、資本の意志・攻撃を先取りし、一体となって攻撃を強制してくるのがJR総連・革マルです。

JR総連 II 「ファシスト労組」

そして、JR総連の組織的危機に連動した、列車妨害事件。JR東労組は、「国労が列車妨害の犯人」と言いだし、中野委員長と動労千葉に対しては、革マル派の機関紙「解放」で、「すみやかに葬り去る」と、断じて許すことのできない攻撃を開始しています。

自分達が生き残るためには、どんな汚いことも平気で行うのがJR総連・革マルです。JR総連・革マルや松崎が言っていること、やっていること、JR総連は「ファシスト労組」という以外にありません。これは、

国鉄労働者ならこの一〇年間、実感していることです。

ファシズムというと、かつて一九三〇年代にドイツでナチスが公然と登場しました。ナチスの正式名称は、国家社会主義労働者党で、革マルは、革命的マルクス主義派といっています。

当時ドイツは大変深刻な経済危機、失業者が大量に生まれるという状況の中で、ナチスが掲げた主要な政策は、雇用問題。結局、国家予算を軍事産業に投入し、そこで、ドイツの労働者を一応は大きく抱え込み、制圧したわけです。

今、八百万人の連合傘下において、その連合の指導に労働者が納得してはいません。この時に、ナチスの発想で台頭しようとするのがJR総連・革マルです。

国鉄闘争

勝利の道

清算事業団闘争、職場での反合闘争の最大の敵対者である、JR総連・革マルを打倒することが、国鉄闘争の勝利の道であることは明らかです。つまり、国鉄決戦の核心は、動労千葉・国労が生き残るのか、JR総連が生き残るのかの組織攻防戦です。また、「革マル」問題とは、「JR体制」の最大の暗黒部分であり、弱点でもあります。ここで勝ち抜くことが、ファシズム運動をたたきつぶし、労働者の未来を切り開く、労働運動の新たな潮流を実現するための道でもあります。

7・8才36回定期委員会
13時〜千葉市民会館

とき 七月一四日 (日) 十三時から

ところ 御茶ノ水・電通会館

指定列車 千葉駅七番線 十一時二五分発 快速列車最後部

内容 講演 中野委員長 国労闘争団 各労組から 発言